

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
384	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Traumatic brain injury in intoxicated patients. 酒に酔った患者における外傷性脳損傷	
執筆者	
Golan JD, Marcoux J, Golan E, Schapiro R, Johnston KM, Maleki M, Khetarpal S, Jacques L.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Trauma. 2007 Aug;63(2):365-9.	
キーワード	
外傷性脳損傷、アルコール中毒、頭蓋内圧	
要 旨	
<p><b>背景：</b> 我々は重症の外傷性脳損傷の患者で外科的治療を受けなかった者において、アルコール中毒の影響について評価することを目指した。</p> <p><b>方法：</b> モントリオール総合病院の外傷性脳損傷登録を使って、入院から 15 分以内のグラスゴー・コーマ・スケールが 8 点以下の成人患者を選定し、その人たちのカルテを後日検討した。</p> <p><b>結果：</b> 23 人の患者の血中アルコールレベル (BAL) が中毒域 (BAL<math>\geq</math>21.7mmol/L) であった。24 人はアルコールを検出しなかった (BAL<math>&lt;</math>3mmol/L)。10 人はアルコール影響下レベルまたは BAL が不明であった。多発性頭蓋内出血や多発外傷、救命処置後のグラスゴー・コーマ・スケールが 8 以下の場合は頭蓋内圧のモニタリングをしている患者が多い。中毒患者はアルコールを検出しなかった患者と比較して、頭蓋内圧モニタリング機器の挿入まで、平均して 151 分の遅延が見られた。</p> <p><b>結論：</b> 我々が対象とした患者の一部にとって、アルコールは治療における交絡因子であった</p>	